

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 3 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	3871000331		
法人名	有限会社 たちばな		
事業所名	グループホーム たちばな		
所在地	伊予市灘町136番地2 (電話) 089-983-0622		
管理者	岩井一美・二宮千鶴		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 20 年 1 月 30 日	評価確定日	平成 20 年 3 月 25 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 12 月 26 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 9 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 9.37 人	

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,000 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 12 月 26 日事業所記入)

利用者人数	16 名	男性 4 名	女性 12 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名
要介護 3	3 名	要介護 4	4 名
要介護 5	2 名	要支援 2	名
年齢	平均 83.6 歳	最低 71 歳	最高 97 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	あり	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体医療機関の患者の要望に応じて立ち上げたホームで、交通の便が良く、家族が来訪しやすい環境にある。瀟洒な建物の2階がホームであり、利用者が希望すれば訪問マッサージやカラオケ等で1階のデイサービスを利用することもできる。近くに商店街があり、買い物を楽しんだり、喫茶サロンで地域の方々や触れ合ったりと利用者の地域での暮らしを支えている。また、近所からの要望で認知症対応型デイサービスを始め、通いの利用者と作業を共にすることが、ホームの利用者にとっても良い刺激となっている。医師や訪問看護師と24時間連絡の取れる体制

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

摂取カロリーの把握を改善課題として、1日1食は宅配業者のカロリー計算された食材を利用し、食事を提供している。そのため、必要量の大体の把握ができていた。また、緊急時の的確な手当てのため、救急蘇生法を消防署の指導により学習し、内部研修で技術の向上に努めている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

職員間で自己評価項目を分担し、それぞれが自己評価した後に管理者がまとめ上げ、運営者が確認している。自己評価の結果、今以上に利用者本位の支援に取り組みたいと意識統一している。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

社会福祉協議会や市のSOSネットワーク作りや地域支援マップ作り、民生委員の協力体制についての情報を得て、相互に協力し合うことを取り決めている。利用者や家族の参加者を毎回替え、一人ひとりの希望を傾聴し、サービスの向上に活かしている。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

家族の来訪時に利用者の様子を細やかに報告し、家族からの意見が出易い雰囲気作り配慮している。また、出された意見を真摯に受け止め、傾聴する姿勢がある。家族から出された介護計画に関する希望は、介護計画へ反映している。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

祭りや花火等の地域行事や地域の会合に参加したり、併設施設と合同で開催している夏祭りに地域の方々に来ていただいたり、小学生の体験学習を受け入れる等、双方向の交流がある。地域の方が集まる商店街の喫茶サロンに出かけ、地域の方々との触れ合いを大切にしている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームA棟

記入者(管理者)
氏名 岩井 一美

評価完了日 平成 19 年 1 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) スタッフルームや掲示板にし、いつでも見ることが出来る様にしている。 (外部評価) 「心の安らぎがあり、穏やかで生きがいを持ち、充実した生活がおくれる」という利用者の立場に立った運営理念を掲げている。利用者が、その生活圏の中で地域との繋がりを継続し、孤立することなくその人らしく充実した生活を送ることができるよう、地域密着型サービスとしての役割を踏まえている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々伝える様に努めているが、至らない所もある様に思える。定期的に勉強会を行い全職員が理解できる様にしている。 (外部評価) 新しい職員にはホームの理念について理解が得られるよう説明し、全職員が共通の意識を持って、理念に基づいた実践をしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 定期的に新聞を発行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の人と気軽に声を掛け合い、日常的な付き合いが出来る様、努めている。心掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 夏祭り、餅つき等の年間行事を通して地元の人々と交流している。又町内の交流できるサロンへも足を運んでいる。 (外部評価) 併施設と合同で夏祭りを催し、地域の方にも来ていただき交流している。小学生の体験学習や演芸ボランティアを受け入れ、利用者にも喜ばれている。また、商店街にあるサロンに出かけ、お茶を飲みながら地域の方との触れ合いを楽しんでいる。祭りでは神輿に入ってもらい、地域行事の祭りや花火にも参加している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域との会合に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価で指摘を受けたことに関しては出来るだけ改善できるように努力をしている。 (外部評価) 前回外部評価を活かし、栄養摂取量を確保し、分量を見極めることができるよう、1日1食はカロリー計算された食材を利用している。また、緊急時の手当を全職員が的確に対処できるよう、消防署の指導による救急蘇生法を受講している。さらに、毎月ホーム内で介護技術の向上のための学習などにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活かし、サービスに繋がる所は事業所で話し合いを持ち取り組んでいる。 (外部評価) 現在までに3回開催し、社会福祉協議会や市のSOSネットワーク作りの情報を得て、民生委員に外出傾向のある方に対する協力を依頼している。利用者と家族の参加者は毎回替え、一人ひとりの意見を傾聴し、サービスの向上に活かしている。	※	次回は看護師に参加してもらい、感染症について話し合うことを計画している。このように、議題に応じてメンバー構成を変更していくこと、さらに地域とのつながりが深まるよう地域の参加メンバーを工夫し、活発な意見交換がされることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 年に数回、市が催す会議等には協力参加し、市職員の方との交流をもっている。定期的に市よりこられる介護相談員の方々を受け入れている。 (外部評価) 市主催のグループホーム連絡会に参加し、市内の他グループホームとの情報交換や講習を受けている。2年前より1か月に1回、市の介護相談員が来訪し、利用者の話を聞いている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等には職員が参加して活用推進には努めているが、現在利用されている方、予定されている方はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には十分な説明を行い、理解、納得を図りながら実施している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から利用者と話せる機会を持ちコミュニケーションを多くとることにて、より気兼ねなく相談、苦情を話して貰える雰囲気作りに努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会で来棟時に利用者の健康状態を伝えたり、健康状態に変化があれば、こまめに家族に連絡を入れている。お子遣い帳を半年に1度、面会時に家族に見せてサインと捺印を頂いている。 (外部評価) 家族の来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、小遣い帳を明示し、サインと捺印を得ている。来訪の少ない家族には電話連絡し、小遣い帳の写しを郵送している。特に健康面での変化がある場合は、その都度電話連絡している。職員の離職については報告していないが、新しい職員の紹介はしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、不満、苦情については気軽に話せる雰囲気を作り、いつでも聞き入れることの出来る様になっている。利用者やホームの運営に反映されている。 (外部評価) 家族の意見を傾聴するよう心がけ、家族が要望を言い易い雰囲気作りをし、忌憚のない意見をいただいている。「歩く練習をさせてほしい。」「寝たきりにならないようにしてほしい。」といった要望は、介護計画に反映させている。また、前回外部評価を活かして、ホーム内の相談、苦情受付先を重要事項説明書に明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の職員会にて意見や提案を聞く機会を設けている。		もう少しこまめに色々な提案や意見を聞く機会を設けたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 可能な限り職員の確保に努め話し合いや協力体制をとりつつ勤務の調整を行っている。		事前での希望が聞かれる時等、極力、調整を行っている。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 管理者から運営者に異動、離職を必要最小限に抑える様に上申している。 (外部評価) 併設施設への異動はない。利用者のことをより深く知り、理解していくよう担当制にしているが、利用者1人に対し、職員3人の担当制にしているため、今のところ職員の離職によるダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域で開かれている研修会には出来るだけ参加している。 (外部評価) 管理者が、研修内容に応じて職員に受講を勧め、積極的に参加している。研修に参加した職員は報告書を作成し、お知らせ案内板に提示し、スタッフ会で伝達講習しているため、全職員が研修内容を共有している。運営者は研修参加費用の面での援助をし、職員の育成に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修等に積極的に参加している。		相互訪問等、ネットワーク作りをしていきたい。
			(外部評価) グループホーム連絡協議会や社会福祉協議会の研修に参加し、同業者と情報交換している。市内の同業者とは、市主催のグループホーム連絡会でも交流があり、電話で相談し合える関係にある。		
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員からの話を聞いて情報収集をしている。		ストレスを感じさせない環境（職員が楽しく働ける職場雰囲気）作りをしていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修等に参加を促している。		職員の力量が伸びる様に研修参加を今以上に促していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前の聞き取り調査をして、本人の意向を確認している。		出来れば事前の聞き取り調査の日数を増やしていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前の聞き取り調査をし、御家族の意向を確認している。		出来れば事前の聞き取り調査の日数を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他サービスも行っている複合施設である為、他サービスも含めて見極めている。		今以上に他サービスとの連携を密にしていきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居目的の方には認知症デイをご利用頂き徐じよに馴染んで頂く様、工夫をしている。 (外部評価) 入居前に自宅や入院先、施設等に管理者と看護師が出向いて面談をし、利用者と家族に見学に来てもらっている。体験入居も実施している。認知症対応型デイサービスを利用し、ホームの雰囲気に馴染んでから入居した方は、不穏もなくスムーズな利用ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人とよく話しをしたり、行事参加をすることにより、相互に支えあう関係(壁ではない)が作れる。 (外部評価) 職員からの支援に対し、利用者から笑顔が返ってきたり、ねぎらいの言葉をかけられたりすることが職員の喜びとなっている。運営者・管理者・職員は、利用者一人ひとりにスキンシップしながら優しく語りかけ、利用者との会話からその思いを共感するように努めている。		今以上に相互依存する関係を作りたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に通院をお願いしたり、必要な物品を補充してもらったり、本人と一緒に支えていく関係を作っている。何かあればすぐに御家族に連絡して本人にとってどうすれば1番よいのか常に情報を交換している。		今以上に家族の協力を得て共に支えあう良好な関係を作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族の関係を維持出来る様に情報交換を面会時や電話にて支援している。		今以上に良好な関係が作れる様なパイプ役になりたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会にきて頂いたり面会しにいたり支援している。		もっと面会しにいたり本人が馴染みの人と会う機会を作っていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が間に入って孤立しない様に努力している。		今以上に利用者同士が仲良く話す場面作りをしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 複合施設のサービス終了後も御家族様が来所する事もあり、関係は続いている場合もある。		関係を断ち切らないような良好な関係を保つ様にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向を把握する様、相談に乗ったり本人本位で物事を考える様に努めている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握するため、常に利用者との会話を心がけている。中には、手紙を書いて希望を伝えてくれる利用者もいる。思いや意向の表出が困難な方に対しては、本人の言動を本人本位に推察し、家族からも話を聞いて把握に努めている。		今以上に本人本位で本人のその人らしい暮らしを支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人リストにこれまでの暮らし方等を記入し職員全員で把握に努めている。		今以上に家族の方からの聞き取り等で詳しい情報を皆で把握していきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録にて一人一人の生活リズムを把握する様に努めている。		職員全員が1人1人の生活リズムを把握出来る様にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 出来るだけ家族の方やリハビリの先生からも意見を頂くように努力しているが充分ではない。 (外部評価) 利用者1人に対して職員3人が担当し、利用者本人や家族の希望に沿った介護計画案を立て、それを基にスタッフ会で他の職員の気づきや意見を出し合い、作成している。身体機能の維持、低下予防を希望している利用者には、訪問マッサージのリハビリ担当者の意見も取り入れ、介護計画に反映させている。		今後、多角的な視点で介護計画を作ることが出来る様に努力していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 常に現状に即した介護計画を作成するようにしている。 (外部評価) 基本的には3か月に1度見直しを行っている。職員が日々のケアで気づいたことは担当者申し送りノートに記録し、全職員が共有し、見直しに役立てている。また、入院や状態変化・終末期等、速やかに見直す必要のある時にはその都度見直し、新たな介護計画を作成している。		今以上にタイムリーに介護計画の見直しが出来る様に努力していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々個別の介護記録に詳細に記録をし朝、夕の申し送りを行ない情報を共有し実践し活かしている。		日々の状態を詳細に記録し共有する事により介護計画に役立てている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 年間行事(夏祭り、クリスマス、餅つき)等、他の部署と一緒にやっている。 (外部評価) 年末年始に外泊できない利用者には、年越しそばや餅つき、おせち料理等を用意して正月を楽しく迎えられるよう配慮している。親戚に会いたい等個別の希望に対しては、家族にお願いしたり、家族の都合によっては職員が同行したりして、利用者の希望に応じている。認知症対応型デイサービスを地域の要望に応える形で開いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 周辺施設等への協力依頼の働きかけを行っている。		年間行事の際、ボランティアに協力を得ている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入所時や退所時、他事業所のケアマネと話し合いを持ち支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域生活支援センターとは、そこまでの話し合いは持っていない。又包括からの働きかけも見られない。		本人の意向や必要性に応じて権利擁護等と協働していくようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間体制で医師、看護師と常に連絡がとれる様になっている。 (外部評価) 内科については、入居の際に本人や家族が協力医をかかりつけ医に選び、往診を受けている。他科については、馴染みの歯科に通院する等、基本的には家族が通院介助している。その際、利用者の状態が分かる他院受診カードをホーム側で作成し、受診が円滑に行われるよう支援し、受診結果を家族から報告してもらうようにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院があり、常に指示や助言をして頂ける医師がいる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護師にて常に健康管理と医療活用の支援を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 情報交換や相談をこまめに行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 早い段階で終末期に対する家族への聞き取り、医師との話し合いを行っている。 (外部評価) 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について口頭で説明し、1年後に終末ケアに関するアンケートを送付し、家族の意向を確認している。終末ケアを希望する家族が医師から説明を受け、終末ケアの方針に同意してから開始している。方針の決定後も、家族の気持ちに変化がないか随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末ケアの出来ること出来ないことの見極めを行い常に医師との連携を持ちながら、検討準備をしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 細かい情報交換を行い再確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の保護には特に気を付けている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いには充分配慮し、介護計画等の個人情報に来訪者の目に触れないようスタッフルームで管理している。また、個人情報の使用について同意書を取っている。職員の声かけはゆっくりと穏やかで、利用者の誇りを損ねるような言葉かけや対応はしていない。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 極力本人の思いや希望を表せる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の場として食事やレクリエーション等を他利用者と共に行動して頂く様、声かけをするが個人のペースや希望を尊重する様、努めている。 (外部評価) 昼食後、大正琴の演奏を披露する・聴く、歌を口ずさむ、別の場所で絵を描く、休む、などそれぞれが思い思いの過ごし方をしている。買い物に出かけたい、レクリエーションに参加したくない時には無理強いしない等希望に沿った支援をしている。また、職員はナースコールを身に付け、利用者のコールに即時対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者よりカット・パーマ等の希望があれば家族に連絡し対応をお願いしているが、家族の都合のつかない場合は職員が付き添っている。又理容、美容師の方に出張を依頼することもある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒にテーブルで職員も食事を摂り手伝って下さる利用者には、下膳や食器拭き等を職員と共に行って頂いている。又誕生日には、ご本人の望む物をメニューに取り入れている。 (外部評価) 職員が前もって立てた10日分の献立を、管理者・運営者が点検し、同じような食材や献立が重ならないよう配慮し、食事が楽しみなものになるよう工夫している。自分で食べる力を活かし、自分のペースで食べられるよう、食器や調理方法をその人に合ったものになっている。下膳、台拭きを利用者に手伝ってもらっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者から希望があれば、個人の身体状況に応じて医師、看護師と相談の上、出来る限り希望に沿う様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら、かつ押し付けにならないよう、トイレ誘導を行っている。		チェック表により個人個人の排泄パターンを理解しトイレ誘導を行っている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の意志をその都度確認し、一人一人ゆったりと入浴できるように支援している。 (外部評価) 以前は毎日入浴を希望する利用者もいたが、現在は基本的に週2回の入浴で、希望があれば回数を増やしている。時間帯についても希望があれば変更できる。重度の利用者も浴槽に浸かることができるよう二人介助で支援している。また、脱衣室、浴室にナースコールの設備があり、利用者の安全のため、職員が連携できる体制となっている。		下肢筋力の低下のある方は2人にて介助をし安心して、浴槽に浸かれる様に援助している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は本人の希望があれば、生活感のあるリビングのソファ等で休息を取ってもらっている。夜間は本人の就寝時間に合わせる様、援助している。		身体機能の低下やコミュニケーション能力の低下している方には、常に声かけをする様、心がけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 洗濯物の片付け等(軽度の日常作業)をして頂いている。他の部署の協力を得てカラオケ等参加出来る様、支援している。 (外部評価) 歌の好きな方は、併設の1階のデイサービスでカラオケを楽しんでいる。カルタ取り、ビーチサッカー等のレクリエーションをしたり、リハビリ体操をしたりして、楽しみながら身体機能の維持に努めている。過去の経験を活かし、リハビリ体操にカスタネットを利用し、手のリハビリに役立てることを考え、指導している利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で持っている人もいるが、必要な時に使える様に個人個人の袋を作り、一つの金庫に入れ保管している。		買い物の時等は本人にお金を持って頂き好きな物を買って頂く様にしたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望に応えられる様に努力している。 (外部評価) 近くの商店街の中に作られた、憩いの場となっている喫茶サロンへ利用者と共に出かけ、地域の方と交流している。商店街での買い物やホームの外回りを散歩したり、暖かい季節には花見や動物園等遠出を楽しんだり、近くの海岸へ散歩に出かけたりしている。		外出を月に一度行いたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 御家族とスーパーへ出かける事もあります。		家族の方も参加できる行事等を考え増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る方はしているが、大半の利用者の方については職員で行っている。		何かあれば電話しているが、その時に可能ならばご本人と話をして頂けたら良いと思う。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問して頂いている。		家族の方々と楽しい時間が過ごせる様に周りの様子にも気をつけていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。		今後身体拘束が必要であったとしても「しない」工夫を考えていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解はしているが、危険だと判断した時は、玄関の鍵を一時的にかけることもある。 (外部評価) 帰宅願望の強い方が時々外出傾向にあるため、家族の協力を得て、家族と一緒に外出できるよう支援し、希望に沿えるようにしている。運営推進会議で民生委員の方にも地域での協力を依頼している。鍵をかけないケアのため、ユニットの入り口にセンサーを付け、外出を察知するようにしている。		なるべく鍵を掛けぬ様に窓や玄関にセンサーをつけ、開いた際、直ぐに対応できる様にしている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、所在や様子を把握し安全に過ごして頂いている。		徘徊のある方は10分おきのチェック表を作り所在の確認を行い安全に過ごして頂いている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 自分で管理出来る方はして頂いているが、出来ない方は職員で管理、保管している。		危険だからと全ての物を取り上げるのではなく、使う際は職員管理のもと使用し安全に過ごして頂いている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬は2人で復唱確認し服用して頂いている。窒息、火災、行方不明等消防の方より指導して頂き転倒防止は見守りで対応している。		講習等、ミーティングの機会を増やし知識を高めたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署に依頼し救急蘇生法の講習を他部署職員との会合で受講し緊急時の対応を学んだ。		今後3ヶ月に1回毎に救急時の対応について研修を行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回消防訓練をし、近隣住民の方々の理解と協力を得られる様に努めている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。居間にも避難経路図を掲示し、常に頭に入れている。また、喫煙場所をテラスに設け、決められた場所での喫煙により、火災の原因にならないようにしている。地震については、耐震強度の面で安全に建築設計されている。夜間を想定しての訓練はされていない。	※	両ユニット共に2階部分にあるため、職員数の少ない夜間でも迅速に行動できるよう訓練しておくことや、日頃から協力依頼している近所の方にも避難訓練に参加してもらおうよう働きかけることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	(自己評価) 入居前の事前調査時や、入居後もケアプラン作成時や状態変化のある時には家族と面談し説明、相談を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日健康チェックを行い入居時の状態把握に努めている。異常を発見した場合には他職員や管理者に直ちに報告し必要であれば医療機関と連携を行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者1人1人の服薬の内容について職員は、理解把握に努めている。又服薬管理を確実に実行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の現病歴や排泄状況を理解、把握した上で飲食物を工夫したり、体操や活動レクリエーションで運動して頂く様にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後のうがい、歯磨きの声かけを行い自分で出来る方には行って頂いている。就寝前には利用者全員に口腔ケアを実施し義歯洗浄を行っている。		毎食後の口腔ケアと食前の口腔体操の実施により口腔内清潔と嚥下機能の向上を図っていきたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の食事、水分摂取量を毎日チェックし把握に努めている。食事の品数や食材の種類も多くする様に工夫している。医師、看護師の相談の上、必要な方には高カロリー栄養食をだしている。 (外部評価) 食事は毎食記録し、水分量は食事やおやつで必要量を摂取できるようにし、毎日記録している。摂食、嚥下の能力に合わせて刻み食や粥を用意し、自分で食べられるよう食器を工夫している。誤嚥を防ぐため、体の傾きのある方にはいすと背中の方にクッションを入れる等細やかな配慮が見られる。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、毎日の業務の中で実践している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理マニュアルを作成し、マニュアルに沿って実施し、台所や食器、調理器具等の清潔に努めている。食材の消費期限等を毎日チェックし、食器管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は来棟される方に対し、その都度、職員が「対応している。又、時期によるイルミネーションや、植物を飾っている。利用者の方が作成された物品等を飾っている。		日中、その都度、来棟される方には、職員が、より丁寧に接していける様に努めたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清掃に心がけ、いつでも綺麗な状態で居心地よく過ごせる様に努めている。 (外部評価) 居間、食堂は窓からの自然光で明るく、加湿器を使用して快適な状態を保っている。テレビを囲むように大きなソファが置かれ、ゆったりくつろぐことができる。テーブルの上に水仙の花が生けられ、季節を感じられる。華やかな装飾を避け、落ち着いた雰囲気である。エレベーター前で職員が模擬店を開き、利用者が買い物を楽しめる。		季節感をもっと取り入れたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過ごせる様に、共用の場所を設け気の合った入居者間のコミュニケーションがとれる工夫をしている。		入居者の方々の状態やその時々的心境も含め居心地のよい環境作りに努めている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家人やご本人とも相談し、好みの居心地のよい環境となっている。 (外部評価) ベッド、箆笥、テレビ、テーブル、いす等利用者一人ひとりに合ったものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。居室は広く、整理整頓されているため、車いすやシルバーカーが安全に使用できる。大きめのナースコールが設置され、利用者が安心して過ごせる工夫が見られる。		季節感をもっと取り入れ工夫をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気、空気の配慮はその都度、状況に応じて行っている。又加湿器やエアコン等でよりよい環境作りに努めている。		冬季洗濯物を室内干しする等し、加湿に工夫をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家人とも相談し、その人にあった居室の環境作りや共同の場に関しては、安全かつ自立を促す工夫をしている。		職員間で意見を出し合い必要に応じた物品をその都度検討している。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 出来る限り、利用者の方が無意識の内に分かる力を発揮出来る様な環境にしている。		その都度、利用者の担当職員とも意見交換を行っている。
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外回りは特に散歩等で楽しめる様、安全に考慮している。		ベランダの段差に対応出来ない車椅子の利用者の方々がいる。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームたちばな

(ユニット名) グループホームB棟

記入者(管理者)
氏名 二宮 千鶴

評価完了日 平成 19 年 1 月 18 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) スタッフルームや掲示板にし、いつでも見ることが出来る様にしている。 (外部評価) 「心の安らぎがあり、穏やかで生きがいを持ち、充実した生活がおくれる」という利用者の立場に立った運営理念を掲げている。利用者が、その生活圏の中で地域との繋がりを継続し、孤立することなくその人らしく充実した生活を送ることができるよう、地域密着型サービスとしての役割を踏まえている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 日々伝える様に努めているが、至らない所もある様に思える。定期的に勉強会を行い全職員が理解できる様にしている。 (外部評価) 新しい職員にはホームの理念について理解が得られるよう説明し、全職員が共通の意識を持って、理念に基づいた実践をしている。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 定期的に新聞を発行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 隣近所の人と気軽に声を掛け合い、日常的な付き合いが出来る様、努めている。心掛けている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 夏祭り、餅つき等の年間行事を通して地元の人々と交流している。又町内の交流できるサロンへも足を運んでいる。 (外部評価) 併設施設と合同で夏祭りを催し、地域の方にも来ていただき交流している。小学生の体験学習や演芸ボランティアを受け入れ、利用者にも喜ばれている。また、商店街にあるサロンに出かけ、お茶を飲みながら地域の方との触れ合いを楽しんでいる。祭りでは神輿に入ってもらい、地域行事の祭りや花火にも参加している。		
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 地域との会合に積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 外部評価で指摘を受けたことに関しては出来るだけ改善できるように努力をしている。 (外部評価) 前回外部評価を活かし、栄養摂取量を確保し、分量を見極めることができるよう、1日1食はカロリー計算された食材を利用している。また、緊急時の手当を全職員が的確に対処できるよう、消防署の指導による救急蘇生法を受講している。さらに、毎月ホーム内で介護技術の向上のための学習などにも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を活かし、サービスに繋がる所は事業所で話し合いを持ち取り組んでいる。 (外部評価) 現在までに3回開催し、社会福祉協議会や市のSOSネットワーク作りの情報を得て、民生委員に外出傾向のある方に対する協力を依頼している。利用者と家族の参加者は毎回替え、一人ひとりの意見を傾聴し、サービスの向上に活かしている。	※	次回は看護師に参加してもらい、感染症について話し合うことを計画している。このように、議題に応じてメンバー構成を変更していくこと、さらに地域とのつながりが深まるよう地域の参加メンバーを工夫し、活発な意見交換がされることを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 年に数回、市が催す会議等には協力参加し、市職員の方との交流をもっている。定期的に市よりこられる介護相談員の方々を受け入れている。 (外部評価) 市主催のグループホーム連絡会に参加し、市内の他グループホームとの情報交換や講習を受けている。2年前より1か月に1回、市の介護相談員が来訪し、利用者の話を聞いている。		
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会等には職員が参加して活用推進には努めているが、現在利用されている方、予定されている方はいない。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 常に注意を払い、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には十分な説明を行い、理解、納得を図りながら実施している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から利用者と話せる機会を持ちコミュニケーションを多くとることにて、より気兼ねなく相談、苦情を話して貰える雰囲気作りに努めている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 面会で来棟時に利用者の健康状態を伝えたり、健康状態に変化があれば、こまめに家族に連絡を入れている。お子遣い帳を半年に1度、面会時に家族に見せてサインと捺印を頂いている。 (外部評価) 家族の来訪時には利用者の暮らしぶりや健康状態について報告し、小遣い帳を明示し、サインと捺印を得ている。来訪の少ない家族には電話連絡し、小遣い帳の写しを郵送している。特に健康面での変化がある場合は、その都度電話連絡している。職員の離職については報告していないが、新しい職員の紹介はしている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族からの意見、不満、苦情については気軽に話せる雰囲気を作り、いつでも聞き入れることの出来る様になっている。利用者やホームの運営に反映されている。 (外部評価) 家族の意見を傾聴するよう心がけ、家族が要望を言い易い雰囲気作りをし、忌憚のない意見をいただいている。「歩く練習をさせてほしい。」「寝たきりにならないようにしてほしい。」といった要望は、介護計画に反映させている。また、前回外部評価を活かして、ホーム内の相談、苦情受付先を重要事項説明書に明示している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回の職員会にて意見や提案を聞く機会を設けている。		もう少しこまめに色々な提案や意見を聞く機会を設けたい。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 可能な限り職員の確保に努め話し合いや協力体制をとって勤務の調整を行っている。		事前での希望が聞かれる時等、極力、調整を行っている。
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 管理者から運営者に異動、離職を必要最小限に抑える様に上申している。 (外部評価) 併設施設への異動はない。利用者のことをより深く知り、理解していくよう担当制にしているが、利用者1人に対し、職員3人の担当制にしているため、今のところ職員の離職によるダメージは見られない。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 地域で開かれている研修会には出来るだけ参加している。 (外部評価) 管理者が、研修内容に応じて職員に受講を勧め、積極的に参加している。研修に参加した職員は報告書を作成し、お知らせ案内板に提示し、スタッフ会で伝達講習しているため、全職員が研修内容を共有している。運営者は研修参加費用の面での援助をし、職員の育成に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修等に積極的に参加している。 (外部評価) グループホーム連絡協議会や社会福祉協議会の研修に参加し、同業者と情報交換している。市内の同業者とは、市主催のグループホーム連絡会でも交流があり、電話で相談し合える関係にある。		相互訪問等、ネットワーク作りをしていきたい。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員からの話を聞いて情報収集をしている。		ストレスを感じさせない環境（職員が楽しく働ける職場雰囲気）作りをしていきたい。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修等に参加を促している。		職員の力量が伸びる様に研修参加を今以上に促していきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前の聞き取り調査をして、本人の意向を確認している。		出来れば事前の聞き取り調査の日数を増やしていきたい。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 事前の聞き取り調査をし、御家族の意向を確認している。		出来れば事前の聞き取り調査の日数を増やしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 他サービスも行っている複合施設である為、他サービスも含めて見極めている。		今以上に他サービスとの連携を密にしていきたい。
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居目的の方には認知症デイをご利用頂き徐じよに馴染んで頂く様、工夫をしている。 (外部評価) 入居前に自宅や入院先、施設等に管理者と看護師が出向いて面談をし、利用者と家族に見学に来てもらっている。体験入居も実施している。認知症対応型デイサービスを利用し、ホームの雰囲気に馴染んでから入居した方は、不穏もなくスムーズな利用ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 本人とよく話しをしたり、行事参加をすることにより、相互に支えあう関係(壁ではない)が作れる。 (外部評価) 職員からの支援に対し、利用者から笑顔が返ってきたり、ねぎらいの言葉をかけられたりすることが職員の喜びとなっている。運営者・管理者・職員は、利用者一人ひとりにスキンシップしながら優しく語りかけ、利用者との会話からその思いを共感するように努めている。		今以上に相互依存する関係を作りたい。
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族に通院をお願いしたり、必要な物品を補充してもらったり、本人と一緒に支えていく関係を作っている。何かあればすぐに御家族に連絡して本人にとってどうすれば1番よいのか常に情報を交換している。		今以上に家族の協力を得て共に支えあう良好な関係を作っていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人と家族の関係を維持出来る様に情報交換を面会時や電話にて支援している。		今以上に良好な関係が作れる様なパイプ役になりたい。
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会にきて頂いたり面会しにいたり支援している。		もっと面会しにいたり本人が馴染みの人と会う機会を作っていきたい。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が間に入って孤立しない様に努力している。		今以上に利用者同士が仲良く話す場面作りをしていきたい。
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 複合施設のサービス終了後も御家族様が来所する事もあり、関係は続いている場合もある。		関係を断ち切らないような良好な関係を保つ様にしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意向を把握する様、相談に乗ったり本人本位で物事を考える様に努めている。 (外部評価) 利用者の思いや意向を把握するため、常に利用者との会話を心がけている。中には、手紙を書いて希望を伝えてくれる利用者もいる。思いや意向の表出が困難な方に対しては、本人の言動を本人本位に推察し、家族からも話を聞いて把握に努めている。		今以上に本人本位で本人のその人らしい暮らしを支援していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 個人リストにこれまでの暮らし方等を記入し職員全員で把握に努めている。		今以上に家族の方からの聞き取り等で詳しい情報を皆で把握していきたい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 介護記録にて一人一人の生活リズムを把握する様に努めている。		職員全員が1人1人の生活リズムを把握出来る様にしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 出来るだけ家族の方やリハビリの先生からも意見を頂くように努力しているが充分ではない。 (外部評価) 利用者1人に対して職員3人が担当し、利用者本人や家族の希望に沿った介護計画案を立て、それを基にスタッフ会で他の職員の気づきや意見を出し合い、作成している。身体機能の維持、低下予防を希望している利用者には、訪問マッサージのリハビリ担当者の意見も取り入れ、介護計画に反映させている。		今後、多角的な視点で介護計画を作ることが出来る様に努力していきたい。
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 常に現状に即した介護計画を作成するようにしている。 (外部評価) 基本的には3か月に1度見直しを行っている。職員が日々のケアで気づいたことは担当者申し送りノートに記録し、全職員が共有し、見直しに役立っている。また、入院や状態変化・終末期等、速やかに見直す必要のある時にはその都度見直し、新たな介護計画を作成している。		今以上にタイムリーに介護計画の見直しが出来る様に努力していきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々個別の介護記録に詳細に記録をし朝、夕の申し送りを行ない情報を共有し実践し活かしている。		日々の状態を詳細に記録し共有する事により介護計画に役立てている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 年間行事(夏祭り、クリスマス、餅つき)等、他の部署と一緒にやっている。 (外部評価) 年末年始に外泊できない利用者には、年越しそばや餅つき、おせち料理等を用意して正月を楽しく迎えられるよう配慮している。親戚に会いたい等個別の希望に対しては、家族にお願いしたり、家族の都合によっては職員が同行したりして、利用者の希望に応じている。認知症対応型デイサービスを地域の要望に応える形で開いている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 周辺施設等への協力依頼の働きかけを行っている。		年間行事の際、ボランティアに協力を得ている。
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 入所時や退所時、他事業所のケアマネと話し合いを持ち支援している。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域生活支援センターとは、そこまでの話し合いは持っていない。又包括からの働きかけも見られない。		本人の意向や必要性に応じて権利擁護等と協働していくようにしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 24時間体制で医師、看護師と常に連絡がとれる様になっている。 (外部評価) 内科については、入居の際に本人や家族が協力医をかかりつけ医に選び、往診を受けている。他科については、馴染みの歯科に通院する等、基本的には家族が通院介助している。その際、利用者の状態が分かる他院受診カードをホーム側で作成し、受診が円滑に行われるよう支援し、受診結果を家族から報告してもらうようにしている。		
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 協力病院があり、常に指示や助言をして頂ける医師がいる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 訪問看護師にて常に健康管理と医療活用の支援を受けている。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 情報交換や相談をこまめに行っている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 早い段階で終末期に対しての家族への聞き取り、医師との話し合いを行っている。 (外部評価) 入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について口頭で説明し、1年後に終末ケアに関するアンケートを送付し、家族の意向を確認している。終末ケアを希望する家族が医師から説明を受け、終末ケアの方針に同意してから開始している。方針の決定後も、家族の気持ちに変化がないか随時確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 終末ケアの出来ること出来ないことの見極めを行い常に医師との連携を持ちながら、検討準備をしている。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 細かい情報交換を行い再確認をしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 個人情報の保護には特に気を付けている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いには充分配慮し、介護計画等の個人情報に来訪者の目に触れないようスタッフルームで管理している。また、個人情報の使用について同意書を取っている。職員の声かけはゆっくりと穏やかで、利用者の誇りを損ねるような言葉かけや対応はしていない。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 極力本人の思いや希望を表せる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 共同生活の場として食事やレクリエーション等を他利用者と共に行動して頂く様、声かけをするが個人のペースや希望を尊重する様、努めている。 (外部評価) 昼食後、大正琴の演奏を披露する・聴く、歌を口ずさむ、別の場所で絵を描く、休む、などそれぞれが思い思いの過ごし方をしている。買い物に出かけたい、レクリエーションに参加したくない時には無理強いしない等希望に沿った支援をしている。また、職員はナースコールを身に付け、利用者のコールに即時対応している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 入居者よりカット・パーマ等の希望があれば家族に連絡し対応をお願いしているが、家族の都合のつかない場合は職員が付き添っている。又理容、美容師の方に出張を依頼することもある。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者と一緒にテーブルで職員も食事を摂り手伝って下さる利用者には、下膳や食器拭き等を職員と共に行って頂いている。又誕生日には、ご本人の望む物をメニューに取り入れている。 (外部評価) 職員が前もって立てた10日分の献立を、管理者・運営者が点検し、同じような食材や献立が重ならないよう配慮し、食事が楽しみなものになるよう工夫している。自分で食べる力を活かし、自分のペースで食べられるよう、食器や調理方法をその人に合ったものになっている。下膳、台拭きを利用者に手伝ってもらっている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 利用者から希望があれば、個人の身体状況に応じて医師、看護師と相談の上、出来る限り希望に沿う様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 本人の意思を尊重しながら、かつ押し付けにならないよう、トイレ誘導を行っている。		チェック表により個人個人の排泄パターンを理解しトイレ誘導を行っている。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 入浴の意志をその都度確認し、一人一人ゆったりと入浴できるように支援している。 (外部評価) 以前は毎日入浴を希望する利用者もいたが、現在は基本的に週2回の入浴で、希望があれば回数を増やしている。時間帯についても希望があれば変更できる。重度の利用者も浴槽に浸かることができるよう二人介助で支援している。また、脱衣室、浴室にナースコールの設備があり、利用者の安全のため、職員が連携できる体制となっている。		下肢筋力の低下のある方は2人にて介助をし安心して、浴槽に浸かれる様に援助している。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 日中は本人の希望があれば、生活感のあるリビングのソファ等で休息を取ってもらっている。夜間は本人の就寝時間に合わせる様、援助している。		身体機能の低下やコミュニケーション能力の低下している方には、常に声かけをする様、心がけている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 洗濯物の片付け等(軽度の日常作業)をして頂いている。他の部署の協力を得てカラオケ等参加出来る様、支援している。 (外部評価) 歌の好きな方は、併設の1階のデイサービスでカラオケを楽しんでいる。カルタ取り、ビーチサッカー等のレクリエーションをしたり、リハビリ体操をしたりして、楽しみながら身体機能の維持に努めている。過去の経験を活かし、リハビリ体操にカスタネットを利用し、手のリハビリに役立つことを考え、指導している利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で持っている人もいるが、必要な時に使える様に個人個人の袋を作り、一つの金庫に入れ保管している。		買い物の時等は本人にお金を持って頂き好きな物を買って頂く様にしたい。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 希望に応えられる様に努力している。 (外部評価) 近くの商店街の中に作られた、憩いの場となっている喫茶サロンへ利用者と共に出かけ、地域の方と交流している。商店街での買い物やホームの外回りを散歩したり、暖かい季節には花見や動物園等遠出を楽しんだり、近くの海岸へ散歩に出かけたりしている。		外出を月に一度行いたい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 御家族とスーパーへ出かける事もあります。		家族の方も参加できる行事等を考え増やしていきたい。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で出来る方はしているが、大半の利用者の方については職員で行っている。		何かあれば電話しているが、その時に可能ならばご本人と話をさせて頂いたら良いと思う。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 気軽に訪問して頂いている。		家族の方々と楽しい時間が過ごせる様に周りの様子にも気をつけていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束はしていない。		今後身体拘束が必要であったとしても「しない」工夫を考えていきたい。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解はしているが、危険だと判断した時は、玄関の鍵を一時的にかけることもある。 (外部評価) 帰宅願望の強い方が時々外出傾向にあるため、家族の協力を得て、家族と一緒に外出できるよう支援し、希望に沿えるようにしている。運営推進会議で民生委員の方にも地域での協力を依頼している。鍵をかけないケアのため、ユニットの入り口にセンサーを付け、外出を察知するようにしている。		なるべく鍵を掛けぬ様に窓や玄関にセンサーをつけ、開いた際、直ぐに対応できる様にしている。
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、所在や様子を把握し安全に過ごして頂いている。		徘徊のある方は10分おきのチェック表を作り所在の確認を行い安全に過ごして頂いている。
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 自分で管理出来る方はして頂いているが、出来ない方は職員で管理、保管している。		危険だからと全ての物を取り上げるのではなく、使う際は職員管理のもと使用し安全に過ごして頂いている。
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 服薬は2人で復唱確認し服用して頂いている。窒息、火災、行方不明等消防の方より指導して頂き転倒防止は見守りで対応している。		講習等、ミーティングの機会を増やし知識を高めたい。


自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 消防署に依頼し救急蘇生法の講習を他部署職員との会合で受講し緊急時の対応を学んだ。		今後3ヶ月に1回毎に救急時の対応について研修を行いたい。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年に2回消防訓練をし、近隣住民の方々の理解と協力を得られる様に努めている。 (外部評価) 消防署の指導のもと、年2回利用者と共に避難訓練を実施している。居間にも避難経路図を掲示し、常に頭に入れている。また、喫煙場所をテラスに設け、決められた場所での喫煙により、火災の原因にならないようにしている。地震については、耐震強度の面で安全に建築設計されている。夜間を想定しての訓練はされていない。	※	両ユニット共に2階部分にあるため、職員数の少ない夜間でも迅速に行動できるよう訓練しておくことや、日頃から協力依頼している近所の方にも避難訓練に参加してもらおうよう働きかけることを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 入居前の事前調査時や、入居後もケアプラン作成時や状態変化のある時には家族と面談し説明、相談を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎日健康チェックを行い入居時の状態把握に努めている。異常を発見した場合には他職員や管理者に直ちに報告し必要であれば医療機関と連携を行っている。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者1人1人の服薬の内容について職員は、理解把握に努めている。又服薬管理を確実に実行している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の現病歴や排泄状況を理解、把握した上で飲食物を工夫したり、体操や活動レクリエーションで運動して頂く様にしている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 食後のうがい、歯磨きの声かけを行い自分で出来る方には行って頂いている。就寝前には利用者全員に口腔ケアを実施し義歯洗浄を行っている。		毎食後の口腔ケアと食前の口腔体操の実施により口腔内清潔と嚥下機能の向上を図っていききたい。
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人の食事、水分摂取量を毎日チェックし把握に努めている。食事の品数や食材の種類も多くする様に工夫している。医師、看護師の相談の上、必要な方には高カロリー栄養食をだしている。 (外部評価) 食事量は毎食記録し、水分量は食事やおやつで必要量を摂取できるようにし、毎日記録している。摂食、嚥下の能力に合わせて刻み食や粥を用意し、自分で食べられるよう食器を工夫している。誤嚥を防ぐため、体の傾きのある方にはいすと背中間にクッションを入れる等細やかな配慮が見られる。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染症予防マニュアルを作成し、毎日の業務の中で実践している。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理マニュアルを作成し、マニュアルに沿って実施し、台所や食器、調理器具等の清潔に努めている。食材の消費期限等を毎日チェックし、食器管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は来棟される方に対し、その都度、職員が「対応している。又、時期によるイルミネーションや、植物を飾っている。利用者の方が作成された物品等を飾っている。		日中、その都度、来棟される方には、職員が、より丁寧に接していける様に努めたい。
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 清掃に心がけ、いつでも綺麗な状態で居心地よく過ごせる様に努めている。 (外部評価) 居間、食堂は窓からの自然光で明るく、加湿器を使用して快適な状態を保っている。テレビを囲むように大きなソファが置かれ、ゆったりくつろぐことができる。テーブルの上に水仙の花が生けられ、季節を感じられる。華美な装飾を避け、落ち着いた雰囲気である。エレベーター前で職員が模擬店を開き、利用者が買い物を楽しめる。		季節感をもっと取り入れたい。
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 居心地よく過ごせる様に、共用の場所を設け気の合った入居者間のコミュニケーションがとれる工夫をしている。		入居者の方々の状態やその時々的心境も含め居心地のよい環境作りに努めている。
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家人やご本人とも相談し、好みの居心地のよい環境となっている。 (外部評価) ベッド、箆笥、テレビ、テーブル、いす等利用者一人ひとりに合ったものを持ち込み、居心地よく過ごせるようにしている。居室は広く、整理整頓されているため、車いすやシルバーカーが安全に使用できる。大きめのナースコールが設置され、利用者が安心して過ごせる工夫が見られる。		季節感をもっと取り入れ工夫をしていきたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 換気、空気の配慮はその都度、状況に応じて行っている。又加湿器やエアコン等でよりよい環境作りに努めている。		冬季洗濯物を室内干しする等し、加湿に工夫をしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家人とも相談し、その人にあった居室の環境作りや共同の場に関しては、安全かつ自立を促す工夫をしている。		職員間で意見を出し合い必要に応じた物品をその都度検討している。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 出来る限り、利用者の方が無意識の内に分かる力を発揮出来る様な環境にしている。		その都度、利用者の担当職員とも意見交換を行っている。
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 建物の外周リは特に散歩等で楽しめる様、安全に考慮している。		ベランダの段差に対応出来ない車椅子の利用者の方々がいる。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある (自己 2 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族と (自己 2 家族の2/3くらいと 評価) 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) 3 たまに 4 ほとんどない	

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)